

## 一人称、多いね...

みなさん、こんにちは。ヨナスと申します。日本語学科の2年生です。

私のスピーチは日本語の一人称についてです。先に謝っておきますが、ちょっと変わったトピックですので、この3分間だけ、こらえてください。

日本語で話すとき、皆さんは自分の一人称を選んだことがありますよね。ふつうは「私」か「僕」でしょう。それに加えて、男の人は親しい友だちといる時、「俺」を使うこともあります。

日本語には他にもいろいろな一人称があります。去年私はいくつあるのか数えてみたら、135個もありました。ノルウェー語よりはるかに多いです。私は日本語のクラスでは毎回ちがう一人称を使って、友達を困らせました。先生は苦笑いしていました。今日は一人称について話したいんです。

まずは「僕」についてです。シンプルな一人称です。よく物語に出てくる子供のキャラクターが、「僕」を使います。この「僕」はちょっと無邪気な感じがあります。でも、大人のはちょっと違います。大人が一人称で「僕」を使うとき、謙虚さや丁寧さを感じます。このちがいは面白いと思います。

次は「我輩」です。夏目漱石先生の「吾輩は猫である」に出てきます。物語の主人公はこの一人称で自分を呼んでいます。でも、この一人称を使うときは気を付けなければいけません。「我輩」にはちょっともったいぶった尊大な感じがありますから。

最後にみんなが大好きなドラゴンボールの一人称を紹介させてください。主人公の孫悟空は「俺」ではなく、「オラ」を使います。「オラ」はちょっとラフで、田舎臭い雰囲気がありますが、私には「オラ」はちょっと暖かいひびきがあって、愛着を覚えます。日本の地方では、おばあちゃんが使うこともあるそうです。

ひとことで誰かの性格やジェンダー、思考を表現できるので、日本語の一人称は面白いと思います。そんな言葉は世界でもめずらしいです。これからもっと勉強して、私の一人称コレクションを増やしたいです。これですべてです。ご清聴ありがとうございました。よくこらえてくれました！